

第2回生駒市総合計画審議会（第二部会）会議録

開催日時 令和3年6月30日（水） 13:30～15:50

開催場所 生駒市役所 401・402会議室

出席者

（委員）久部会長、鐵東委員、楠委員、中山委員

（事務局）増田市長公室長、岡村企画政策課長、片山企画政策課計画係長、竹田企画政策課係員

（担当課）池田水道総務課長、河島下水道課長、知浦みどり公園課長、巽みどり公園課課長補佐、松本花のまちづくりセンター所長、大垣広報広聴課長、森ICTイノベーション推進課長、奥田商工観光課長、古賀観光振興室室長、植島農林課長

欠席者 なし

議事内容

(1)各小分野の検証

(2)その他

【事務局】（開会宣告、配布資料確認）

以下、発言要旨

No. 422 上下水道

【楠委員】 県域水道一体化と関連して、老朽管の更新に問題がないのか等詳しく教えてもらいたい。

【水道総務課】 一体化したときに、今の水準をどう維持・拡充していくかが重要となる。今後、人口減少による給水収益の減少、老朽管の更新費用の増大等、課題に対して生駒市としては、現行の水道サービスの提供水準を低下させることなく、かつ、料金上昇の抑制を図るという前提のもと、「覚書」を締結した。その中で「更新実績を保証する」との取り決めを行っている。

【久部会長】 市町村で平準化すると、今まで先行していたところが後退することになる。企業団になっても同じ水準でのサービス提供ができるかが大事。技師

はどう確保するのか。

【水道総務課】 詳細はこれからだが、設立当初は当面の間、職員派遣で考えている。職員が退職したら企業団採用の職員が入ることとなる。技術職の確保は難しいが、今後、一体化の協議では、企業団としての職員体制のあり方について技術の継承も協議していく。

【鐵東委員】 水道が整備されていなくて苦労した企業の話聞いた。これから先、整備されていないところに企業はこない。課題解決のために必要な要素欄で「財源」にチェックが入っているが、お金が集まるようなことをしないと進まない。

【久部会長】 今は市独自でできていることも広域になると優先順位付けが出てくる。開発事業とからめながら進めてもらいたい。他市では水道の使用量が増えると料金も高くなる場所もあり、自分で井戸を掘って調達した方が安いので自己水源のところもある。

【水道総務課】 生駒市も使えば使うほど高くなる。自社で井戸を掘って賄っているところもある。

【久部会長】 すべて市営水道を使わなくてもいいと思っている。水道資源確保の面という柔軟に考えてもらいたい。「下水道」分野の成果欄に「費用対効果が低下」とあるが、費用が高くなってきたということではないか。

【下水道課】 ガス管、水道管など地下埋設物の移設費用がかさんでいる。

【久部会長】 それであれば「費用がかかる」とした方が分かりやすい。今後も起こることなので、それに対してどうするかを解決方法の欄に書いてほしい。成果欄と解決方法の欄に記載していることが合っていない。

【下水道課】 事業が2つあるのに指標が「下水道普及率」だけなのでおかしくなっている。

【事務局】 合併処理浄化槽の普及状況を示すものを補助指標にしてもいいのではないか。

【下水道課】 浄化槽は個人負担がかかる。個人に委ねられているものなので指標に設定するにはふさわしくない。解決方法欄の記載を見直す。

【久部会長】 水がきれいになればよく、それを迫りかける指標としてどれがふさわしいかという話である。

【下水道課】 生駒市は当面、下水道整備と合併処理浄化槽の両輪でやっていく方針。

【久部会長】 下水道はメンテナンスのコストもかかる。いつまでも行政主体でいいのか、そろそろ先のことを考えて決断するタイミングかもしれない。

No. 441 緑環境・公園

【楠委員】 若い世代とのしくみづくりが大事。調査によると、自治会に参画しない意向の若い層は6～7割を占めている。高齢者は花壇をつくるにも体力がない。5～10年後にむけてどうするか考えなければならない。

【久部会長】 萩の台の「公園にいこーえん」をもっと前に出せばいい。今までの活動は若い人に受け入れられていない。ふろーらむのボランティアも設立当初は40～50代だったが、高齢化している。組織の中の新陳代謝が行われておらず、40代以下で地域活動・社会活動に取り組んでいる人が増えているのに、自治会などに入れていない。公園でうまく混じり合えるようなしかけはできないか。

【みどり公園課】 若い自治会長のところには若い世代がうまく入れている。アンテナをはって、自治会と離れて活動している人にアプローチしたい。また、「花と緑のわがまちづくり助成」で補助しているところが100団体ほどある。取材に行って活動内容をSNSで発信していきたいと考えている。

【久部会長】 そのようなPRは検証シートで書いてもらいたい。「いこーえん」は他の地域からも注目されているので、他地域でも広がっていけばいい。コミュニティパーク事業が1つの柱となっており、萩の台で取組が進んだきっかけもコミュニティパーク事業である。もっと進めてもらいたい。公園整備とコミュニティ活性化の両方を効果測定できればいい。

【みどり公園課】 昨年度からはコミュニティパーク事業よりも小規模な「みんなの公園ワークショップ」を進めており、公園利用者に集まってもらっている。地域で継続してもらうために、職員が地域に入って話し合いをしていく場をつくりたい。

【鐵東委員】 公園にスポンサー企業の名前をつけるなどお金を集める方法もいいかと思う。

【久部会長】 ネーミングライツもいいし、遊具の寄附でもいい。これからは公共施設

を活用していく時代。都市公園だけでなく駅前広場も市民が活用して魅力をつくっていく時代なので、ノウハウを持っているみどり公園課を中心に道路・広場の部局も巻き込みながら広がっていけばいい。現状、プレイスメイキングの幅の広がりが見えない。

【みどり公園課】 老朽化した緑地や公園の管理に手を取られている現状があるので、維持管理するチームと活性化するチームの2つが必要だと思っている。

【久部会長】 管理する人と活用する人が同じだと難しく、ブレーキとアクセルは分けた方がいい。活用の時代に合わせた人員配置をしてもらいたい。ハードとソフトが連携し、市民活動が活発になるような公園を期待している。指標②と③はそれぞれ5年後のまちの実現を表しているのか疑問があるので、次の機会に向けて考えてもらいたい。

No. 511 都市活力創造

【楠委員】 「都市ブランド形成」分野と「公民連携」分野の両方にかかることだが、市民・事業者・行政が一体となってICTの切り口でビジネスモデルを生み出せないか。

【ICTイノベーション推進課】 協創対話窓口は、行政の課題を事業者等のアイデアや資源で解決していく事業である。今後、SDGsの推進や複合型コミュニティ事業とどう絡めていくかなどしくみを考える必要がある。

【久部会長】 もっと具体的なイメージはないか。若手ベンチャーのような小さな起業と組む方が早いですが、そのためには契約制度も見直す必要がある。根本的に契約制度を見直さないとイノベーションは進まない。

【ICTイノベーション推進課】 契約制度については、上位課題として認識している。

【久部会長】 神戸市はアーバンイノベーション神戸を立ち上げ、NPO法人コミュニティリンクが運営している。市から一緒にやらないですか、というアピールがしっかりできている。都市活力創造に共通して関わることなので、制度設計を含めて一緒に考えたい。

【楠委員】 いこま市民パワー㈱は、行政がつくったものに事業者と市民が参加している。市民を巻き込んで広げていき、お金が回っていくまちづくりを進める一つの形ができている。既にできているものにカバーリングしていけば

いい。都市活力創造は要の部分だが、新しいビジネスモデルをつくっていく上でいこま市民パワー(株)をうまく活用されていないのが残念である。

【久部会長】 推奨意欲を持つ人の割合も伸び悩んでいる。情報に敏感でない人に届けるのは難しいので、広報紙とは別の読者がいるところに情報を届ける戦略があってもいい。

【広報広聴課】 生駒市の都市ブランド形成は、新しいビジネスモデルを生み出すことではなく、生活を豊かにする場所やコトが増える土壌づくりを目標に取り組んでいる。生駒をポジティブに発信する人を増やすことが大事であって、行政メディアをどのように見てもらうかにこだわっているわけではない。

【久部会長】 今述べられたことが検証シートに記載されていれば分かりやすい。両分野とも、評価はもうワンランクずつ上がってもいいと思うが、あえてシビアに評価している理由はあるのか。

【広報広聴課】 広報広聴課はいこまの魅力創造課のような事業ができず、情報編集が中心の業務になった。今年は企画政策課と一緒に都市ブランド形成に資する事業立案を各課と一緒に考えていく予定である。以上のことからB2評価にしている。

【ICTイノベーション推進課】 協創対話窓口では、事業者等から自由に提案頂くフリー型と、行政から課題を提示するテーマ型があるが、テーマ型があまりできなかった。協創マインドを職員にもう少しもってもらう必要があるため、C1評価とした。

【久部会長】 近畿大学では毎年学部単位で、プレスリリースの件数やメディア露出件数などが集計されて返ってくる。広報広聴課としてネタがほしいのであれば、そういった情報を出すのも一つである。ホームページにもメディア欄があり、データベースになっているので自動的に集計できる。参考にしてもらいたい。全体的に目玉施策の分野であるので、期待している。

No. 521 商工観光

【楠委員】 市民ができること「自分や家族などの就職先の選択肢に市内立地企業も含めている」の取組状況が低い。また、どの細分野も市民実感度が20%を切っている。住宅都市ならではの課題だと思う。

【商工観光課】 市民の中では生駒と商業や観光が結びつかない人も多い。テクノエリア

のことを知らない人もいます。市制50周年とあわせて、創立50年の市内企業紹介を考えている。

【観光振興室】 コロナでインバウンドがなくなった代わりに、マイクロツーリズムの動きがある。市民も観光客の一人と位置付け、「とまりいこまキャンペーン」も実施した。今後も継続していきたい。

【久部会長】 コロナで方向性が180度変わったので、5年後のまちの姿を変えた方がいいかもしれない。

【観光振興室】 目標とするまちの姿は変えなくていいと思っている。国もこれまで掲げてきたインバウンドの目標を取り下げていない。考え方のステージが変わって、プラスαとして地元もターゲットにしようという動きである。

【久部会長】 特定層に偏るのはリスクが大きい。コロナが観光のあるべき姿を見直すきっかけになったと思う。

【鐵東委員】 観光資源が限定されており足りていない。今あるものの組み合わせだけだと持続していかない。お店やスポットを誘致するような考えが必要なのではないか。今あるところの支援をしたいのは理解できるが、広がっていかない。一緒に考えたい。

【観光振興室】 事業者と一緒にお金を落としてもらえよう事業をつくり、OTAで販売するところまでできた。これからも進めていきたい。

【久部会長】 30代～40代の人が自分で起業するなどのエピソードがもっとあってもいい。

【商工観光課】 いこま経営塾はこれまで座学で終了していたが、昨年度から座学のあとプレゼンをしてもらい、5人が起業するまで伴走した。今年度も既に沢山の応募があり、機運が高まっている。また、今年から、創業した人に売る方法を学んでもらう営業道場も実施している。

【久部会長】 5人の内訳は。

【商工観光課】 40～60代で、オンライン料理教室、女性の働き方のコンサルティング、整体の学校、美容鍼、手ぬぐいデザインなどに取り組まれている。

【久部会長】 グッドサイクルいこまで紹介されている人はおもしろい。もっとユニークな事例がほしい。

【商工観光課】 応募者の中におもしろい人もいたが、企画の実現性が低くて選ばれなか

った人もいる。2期目ではそういった視点でもみていきたい。

【久部会長】 どうしても自分たちの経験・知識の中だけで考えがちであるので、全国的におもしろいことをされている人の情報提供をしてはどうか。

【鐵東委員】 駅前南側に若い人がスモールビジネスをできるようなオフィスがつかればいいと思っている。

【久部会長】 イニシャルコストをあまり掛けられない人は、家賃2万円くらいの場所から始める。情報提供は積極的にしてもらいたい。

【商工観光課】 イコマドにそういった機能を持たせられないか考えている。

【久部会長】 従来からの取組に加えて、新しいタイプの働き方が生まれるものを追いかけてもらいたいし、検証シートにもエピソードがほしい。

No. 531 農業

【中山委員】 地元の高山でイチゴをつくっている人がいるが、購入方法は。

【農林課】 北コミで実施しているまごころ市やベルテラスの朝市で購入できる。いそかわ、近商に売りに出している人もいる。

【中山委員】 平群町のような道の駅はないのか。

【農林課】 ない。施設をつくと常時商品がないとならないが、生駒は作物がある時とない時が激しい。今は様子を見ながら生産量を増やしている。

【鐵東委員】 農業をどう発展させるのか方向性が見えない。誰に向かって作っているのかもわからない。個人的には市民向けに顔が見えるようにつくればいいと思う。どのエリアで農業をするのかなど計画をもってやった方がいい。今の農家だけでなく、先を見据えて考えてもらいたい。

【久部会長】 「農地保全」と「地産地消」は循環している。「地産地消」分野の5年後のまちの前段は「市民等が農と親しむことで」とあるが、昨年度はどうだったか。

【農林課】 耕作放棄地が増えている中、まちの人にも耕作してもらい、農と親しんでもらうため、遊休農地活用事業をしている。新規就農者の空き農地の問い合わせも複数あり、都市部に近いことから販路として場所がいいので、今も農地待ちの人が5、6名いる状況である。マッチングが難しい。PRがうまく見えていないことは課題と思っている。

【久部会長】 空き店舗・空き家・耕作放棄地は同じ構造になっていると思う。やる気がなく、人に貸す気もないから動かない。ニーズがあるのにマッチングできないのはもったいない。茨木市では、市民がJAとタイアップしてマルシェをするなど、消費者と生産者が手を取りながらやっている。

【農林課】 昨年度、「いこまレストラン」という取組をした。市内のレストランを貸し切って生駒産の野菜を一般市民が食べて生産者と交流を深めてもらうしかけである。今年度は3か所で実施する予定。

【久部会長】 道の駅で継続して出せないことなど生駒の現状を市民ベースで知ってもらい、うまくいっていないところにも気づいてもらえればいい。検証シートは、全体的な評価とアピールポイントの両方を組み合わせて書いてもらいたい。農学部を新設した大学があることでも分かるように、大学も農業で人を集められる時代になっている。農に風が吹いているので若い人を育てて後継につなげられたらいい。

【農林課】 シャインマスカットなど農産物をふるさと納税の返礼品に入れるなどの取組も進めている。

【鐵東委員】 いこま市民パワー(株)は収益還元会社だと思っている。農業でも何か連携できれば。農業する場所、働く場所、消費場所など、ゾーン分けは行政の仕事だと思っている。

【農林課】 環境モデル都市に申請したとき、木質バイオマス発電のことを記載していたかと思う。実現されればイチゴハウスの暖房にも活用できるのではないかと思う。

【久部会長】 農家に経営的なノウハウを勉強してもらいたい。付加価値をどうつけるかは大事。商工会議所はノウハウを持っているので、頼っていても良い。

【農林課】 農作物をつくるだけでなく、経営計画を立てることもチェックしている。

【久部会長】 農家の方が商工業のセミナーを受けて、受講レポートを提出させてチェックすればいい。業種をこえて経営感覚をつけられるような取組を考えてもらいたい。

【事務局】 (庶務連絡、閉会宣告)

— 了 —